

大震災の経験 教訓に

親子で備えの意識醸成

こそだて シップ「防災ママフェスタ」催す

大船渡



オープニングを飾った海の星幼稚園の園児たち＝防災観光交流センター（電子新聞に別写真あり）

大船渡市のNPO法人こそだてシップ（伊藤裕子理事長）が主催する「赤ちゃんからの防災ママフェスタ」は22日、大船渡町の防災観光交流センターで開かれた。多数の親子連れが同センターの屋内外で行われた多彩な催しを楽しむとともに、東日本大震災当時に小さな子どもがいた母親、ボランティアに尽力した同法人の経験や教訓を聞き、万が一の災害に対する防災意識を高めた。

東日本大震災から7年6カ月が経過し、市内でも被災を経験していない親子が増えている。この催しは、そうした親子らに日ごろから防災意識を持ってもらおうと企画されたもので、公益財団法人いきいき岩手支援財団の「こわい子ども希望基

金」の助成を受けて行われた。市民活動支援センターが共催し、気仙3市町や大船渡保健所、東海新報社、NPO法人いわて連携復興センター、NPO法人おはなしころりん、おおふなどキッズワークショップが協力して開かれた。

大船渡町の海の星幼稚園（菅原優子園長、園児61人）の5歳児23人が、元気いっぱいに鼓隊の演技やダンスを披露し、オープニングを飾ったあと、大船渡消防署の消防士による「地震と津波」「火事」「日常時の緊急対応」をテーマにした講話や、同町の防災士・新沼真弓さんによる新聞紙を使った防災グッズ作りなどのワークショップが行われた。

また、場内では、災害時に役立つ品物などの展示や非常食の試食のほか、大型遊具やフラワーアレンジメント、ハンドマッサージ

でいなかったので、当たった。市市民活動支援センターが共催し、気仙3市町や大船渡保健所、東海新報社、NPO法人いわて連携復興センター、NPO法人おはなしころりん、おおふなどキッズワークショップが協力して開かれた。

大船渡市による「名科長などを務める大浦裕之医師（同市出身）が解説「名医にきくく！」講演会

この講演会は、最新研究で分かってきた医療や体に関する情報をプロの視点から伝え、市民の健康づくりなどに役立ててもらおうと本年度新たに企画。2回目となったこの日は、市民ら1000人余りが参加した。

涼風の由 各地で秋被